

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 25 年度

事業所番号	2775502525		
法人名	医療法人 幸晴会		
事業所名	第二こうせい苑グループホーム		
所在地	八尾市中田3-54-26		
自己評価作成日	平成 25年 9月 15日	評価結果市町村受理日	平成 26年 1月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&jigyosyoCd=2775502525-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 25年 11月 30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で利用者様と職員が一緒に家事をしたり、同じ食事を同じ時間に同じテーブルで頂き、同じ屋根の下で暮しています。その人らしく生活できるよう常に利用者様に寄り添い、それぞれの思いを汲み取り、柔軟な対応ができるよう心がけています。医療との連携が徹底しているので、家族様・利用者様に安心して暮らして頂くことができます。より質の高いサービスが提供できるよう法人全体での研修会や資格取得支援が充実しており、学ぶ機会が多くあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の暮らしを支えてきた医療法人が、医療と介護の連携による総合的なサービスを提供することで、地域のニーズに応えるべく開設したグループホームです。先代理事長の思いが、事業所の名前に秘められ、その思いは今も引き継がれて実践され、地域からも信頼を得ています。管理者や職員は常に理念を基本とし、利用者一人ひとりを大切に、利用者の喜ぶ姿・笑顔がみたいとの思いで暮らしを支えています。また、家族が利用者を大切に思う気持ちも大切にし、ケアに活かしています。開設以来看取りの方針を掲げ、ターミナルケアを実践しています。管理者は職員にも常に関心を寄せ、安心して働ける環境作りに尽力しています。「事業所の自慢は、利用者に対する愛情が深いところだ」と話す職員が支える利用者の暮らしは、明るく穏やかな毎日となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成しており、事業所内に掲示している。日常的に確認し常に意識を持つよう心掛け、全職員で共有、実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえて事業所の理念を明文化し、職員が日常的に目につくところに掲示しています。また、会議の中で確認し、ホーム長は日常的に大切にすることを職員に伝えています。事業所設立の目的や前理事長の思いも入職時研修で伝え、引き継がれています。	今後事業所の理念が、地域や家族にも理解・支持され、地域密着型サービス事業所として、さらなる発展に繋がることが期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議などで情報を頂き市民スポーツ祭などに参加させていただいたり、近隣保育園児との交流をさせていただいている。	地域との交流には積極的に取り組み、夏祭りや体育祭等へ参加しています。ボランティアの訪問も多く、マジック、コーラス、ハーモニカ、フォークソング等の協力は、利用者の豊かな暮らしを支える大きな力となっています。また、近隣保育園の園児交流も、利用者の楽しみの一つとなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで認知症に関するお話をしたり、支援の方法や情報をお知らせしている。また、見学に来られた際に困っていることの相談に乗ったりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では2ヶ月に1回、事業所でのサービス提供の内容や行事・研修・地域との交流などの報告を行ない、助言・意見などを頂いている。	運営推進会議の規程を作成し、2カ月に1回開催しています。市の職員、民生委員、利用者家族、高齢者クラブより参加を得て、話し合いを行っています。会議内容は、ホームの現状や研修報告等を行い、感想や意見を頂いています。8月は、ホームでの食事を実際に見て試食してもらい、たくさんの意見をもらいました。また、外部評価の説明では、地域との関わりの重要性を理解してもらいました。会議の議事録は、家族に送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当課の方とは、常に連絡・相談できる環境にあり、運営推進会議に参加していただいているし、会議の委員の紹介もしていただいている。	市の担当者とは、気軽に何でも相談できる関係を築いています。ホーム長が役員として出席している、介護保険事業者連絡協議会のグループホーム分科会には、市の担当者も出席し、情報の交換と連携を深めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同一法人内の各事業所参加の研修会にて、「身体拘束について」の担当になっており学習・発表している。全職員が正しく理解しており、また、日々のケアの中では、言葉による拘束にも意識を払い声掛けにも工夫している。	法人内の研修会で、「身体拘束について」のテーマを事業所の担当として受け持ち、皆で学習して発表しました。最近ニュースになった他市での高齢者虐待についても、全体会議で改めて虐待防止について確認しあっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外での研修にて繰り返し学習している。日々のケアの中で些細な傷等でも職員間で情報を共有し、見過ごしの無いよう努めている。職員のストレスが溜まらない様、悩みや困ったことを職員同士で話し合える環境になっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人制度を利用されている方がおられる。必要に応じ関係者と話し合い、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項・契約書の説明を細かく行ない、不安や疑問が残らないよう十分に話し合いご理解・納得していただいている。加算等で利用料金が改正される時は文章や口頭等にて説明を行ないご理解頂ける様に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人やご家族様とは常にコミュニケーションを大切にし、意見・希望を話せる雰囲気作りを心掛けている。計画書説明時にも家族の意見や希望を聞いている。公共機関の苦情受付窓口を重要事項説明書に記載している。	家族の面会時には、その都度声をかけを行い、意見や要望を聞くようにしています。また、家族交流会を年1回開催し、雑談の中から要望を聞くように心がけています。職員の異動や亡くなった利用者・新入居の利用者の紹介の希望の声があがり、通信で知らせるようにしました。ホーム内で開催するカラオケ大会には、家族も参加の予定です。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議で検討したい議題を、前もって意見を聞けるようにし、出された意見を検討しサービス向上につなげている。また、全体会議でも意見を発言できるようにし、反映させている。	毎月のフロア会議や全体会議で意見を出し合い、サービス向上に向けて話し合っています。管理者は、自分たちが働く職場のことは自身で考えるという、職員の自主性と創造力を尊重しています。また、職員のメンタル面への配慮にも心がけています。職員の「自身が管理者から大切に見守ってもらっている安心感」が、利用者への思いやりのあるケアに繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が専門職としての目標や充実感を持ち、業務に取り組めるよう研修や勉強会を通じて意識向上を図っている。 働きやすい職場環境づくりに配慮し、職員の定着に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内における内部研修、事業所内での会議や勉強会を通じて職員のスキルアップを図っている。法人内で介護福祉士受験対策講座や14項目に亘る法人内部研修を設け職員の意識向上を図っている。 事業所内では、職員間で利用者様の状況などの情報を共有し、介護技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八尾市介護保険事業所連絡協議会のグループホーム分科会に参加し、他施設見学会や懇親会などに積極的に参加し情報収集・交換に努め交流を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートや生活歴の情報を基に、意志を伝えることができる方には十分に傾聴し、意志を伝えることが出来ない方には様子を観察しながら穏やかに、その人らしく生活できるよう支援している。不安感が強い時などは寄り添い安心してもらえるような環境づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は家族様も不安感を持っておられることを理解した上で、いつでも相談・質問等に答えられるようにしている。面会時や計画書の説明時に近況を伝え、家族様の要望や思いを汲み取り対応している。家族様が話かけやすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」の必要な支援を家族様の要望を尊重し、介護者側から見た必要とすることも提案させていただき、充分説明し、ご理解いただけるよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を人生の大先輩として敬う気持ちで、共に生活を送る事を基準とし、一人ひとりが出来る事を行なうことで、生活の中で役割を感じて頂ける様に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気軽に面会に来ていただける雰囲気作りを心掛け、その時々状況に合った対応で話をしやすい環境づくりが出来よう配慮している。行事への参加時にはゆったりした時間を作り普段聞くことの出来ない話を聞く機会を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様を含め親戚や友人が尋ねて来られた時には一緒に歓迎し、楽しく過ごしていただける雰囲気、環境づくりを心掛けている。又、気軽に外出できるようにもしている。	事業所の理念の一つである「今までの生活を継続できるように支援します」を実践しています。馴染みの友達が訪問したり、以前住んでいた地域へドライブにでかけたり、ホームへ入居する前の施設へ行く利用者もいます。利用者は、職員の付き添いで近隣の施設に入居する家族の面会に出かけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの表情の変化に注意し、落ち着ける場所の確保や不安のないようコミュニケーションを取っている。それぞれの性格や身体状況を把握し、利用者間の関係を見守り、支え合えるような支援を心掛けている。レクリエーション等を通して利用者同士が関わる事が出来る場面を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、気軽に立ち寄って頂ける様、また、困りごとなどの相談に乗れる関係を心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、それぞれの訴えや思い・意向を把握し、常に本人の立場にたって考えるよう努めている。	入居時にフェイスシートで本人の生活習慣や趣味、好み等や家族の希望を把握するようにしています。また、家族に本人像を書いてもらっています。そこには家族の利用者への思いが込められ、家族が利用者を大切に思う気持ちが伝わり、職員も共有して支援にあたることができています。	記録様式は工夫し、改善しています。記録内容が簡潔になっているため、今後はさらに利用者の生活状況や表情が見える記録内容になるよう工夫し、その人らしい支援に活かされることが期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や関係機関からの情報を把握し、また、入居後の日々の生活の中で本人からの情報収集をし、把握に努めている。又、全ての情報を個人ファイルに収めいつでも確認することが出来る状態にしている。情報も随時更新している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態の把握に努め、その人に合った生活ペースで過ごしてもらっている。台所や洗濯物の手伝い、昼寝や居室への行き来、日光浴や散歩など。出来る事、できない事の把握に努め、能力を活かしながら生活できるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族・職員の意見を踏まえ、毎月モニタリングを行ない、3ヶ月毎のカンファレンスを基にサービス計画書を作成している。改善点や状態の変化があればその都度カンファレンスを行ない、必要時には医療関係者の同席のもと意見交換を行ない介護計画を作成している。	介護計画は、家族や利用者からの意見や要望を聞き作成しています。モニタリングは担当者が行い、3ヵ月毎に見直しを行っています。カンファレンスの前には、家族の希望を聞くようにしています。今後は、全職員の意見を聞くモニタリング方法に変更する予定です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には家族様が見ても判り易い言葉や表現で、一日の様子や気づきを細かに記載し、又、申し送り等で職員間で情報を共有し実践している。日々の様子や記録の中から状況に変化が見られた場合は、話し合いで介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に変化があれば、その都度相談し、柔軟な対応を心掛けている。理学療法士や言語聴覚士にリハビリの相談をしたり指導していただいたりしている。また、近隣の同法人施設へ訪問したりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で民生委員の方に地域で参加できる行事などの情報を頂いたり、ボランティアさんを招いて楽しいひと時を過ごしたり、近隣の保育園児との交流なども行なっている。行きつけの理髪店や飲食店へ行く機会を設け楽しみを持ってもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、かかりつけ医の往診を受けたり、随時に専門医の受診には、家族様と行かれたり、場合によっては職員が付き添って行くこともある。歯科医の訪問診療を受けたりもしている。	入居前からのかかりつけ医や医療機関への受診は、利用者の希望があれば可能です。現在は、利用者全員が月2回ホームの協力医の内科往診を受診しています。また、日祭日以外は毎日、訪問看護師が来てくれています。医療と福祉の連携による総合的なサービスを提供する法人の支援は、家族や職員の安心に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制になっており、訪問看護師が月一土と毎日訪問してくれているので、利用者様の日々の様子や変化を伝え相談している。緊急時には夜間や休日にも対応でき、24時間オンコール体制になっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には利用者の心身の状態等を医療機関に情報を提供している。入院期間中も病院関係者と連絡を取り、利用者の現状の把握に努めている。退院時には医療機関からの情報提供を依頼し、かかりつけ医とも連携し出来るだけ早期に退院できるような態勢に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」を基に入居時に説明している。実際に重度化が予想される場合には、段階ごとに家族の意向を確認しながら方針を共有し、家族・医療・職員と連携し、本人・家族にとって望む終末期が送れる様支援している。また、ターミナルケアについての研修に参加し、職員の知識向上にも取り組んでいる。	開設以来、終末期を見据えた支援をしています。法人の方針である、医療と介護の連携による支援を実践しています。ホームにおける看取り介護の考え方、介護の具体的な支援内容・方法等を示した「看取りに関する指針」を作成し、家族に説明しています。また、重度になった時を想定し、本人の意思に関する同意書をもらっています。医師との協力関係が構築され、これまでも、利用者や家族の希望に応じて終末期の支援をしてきました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてのマニュアルを事務所等に掲示している。事故発生時や緊急時の対応について、外部研修や法人内研修に参加し、救命技術の修得に勤めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署立会いや法人防災管理者の指示のもと、地震や火災等の災害場面を想定し避難訓練を行なっている。また、運営推進会議を通して防災についての意見交換を行い協力体制が取れるよう話し合っている。 備蓄食料を、日付を確認し、常に準備している。	定期的な避難訓練は、特に夜間想定に力を入れています。訓練前には近隣の住宅にチラシを配って実施を知らせ、訓練の内容を知ってもらうようにしています。消防署は道路を隔てたところにあります。また、元消防署員の職員が法人全体の防災に関して、点検や避難の方法を職員に解りやすく浸透させています。備蓄品は事務所内に準備し、それぞれの賞味期限を書いて壁に貼り、職員全員が解るように工夫されています。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への尊敬の念を持って、一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけることの無いよう言葉掛けや対応に気を付けている。排泄時や入浴時にはプライバシーに配慮している。 職員は人権やプライバシーに関する研修を学び、伝達研修を行ない、実践に生かしている。	利用者への声かけの際、職員は意識して利用者の横に行き、解りやすく丁寧な言葉かけをしています。特に排泄の失敗時はさりげなく、利用者の自尊心を傷つけないような声かけで対応しています。職員はセルフチェックシートによって、研修の効果や声かけの仕方、言葉使いなどを自己評価できるようにしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションで利用者様の思いや希望を聞きだせる場を設けたり、思いを汲み取り傾聴し、寄り添うよう心掛け、ご自分で選択できるように支援したい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望や要望にできる限り応えられるようにしている。一人ひとりのペースで日常を過ごせるよう、食事や昼寝、就寝時間も体調やその日の状態に合わせて変えている。入所時には家族様に自宅での過ごし方を聞き、その人に合わせたペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容や近隣の理髪店には個々の希望に合うようお願いしている。昔から使用している化粧品なども家族様の協力で使用してもらっている。季節に合った衣服を一緒に選んだりしている。自己にてできない方には季節に合った着易い衣服を選んでいく。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下状態や義歯の状況などを把握し、その人に合わせた食事形態で提供している。また、一人ひとりに合った提供時間や食器、箸、スプーン等の形・大きさも変えている。行事時や週1回のお楽しみメニューで普段食べていないものを考え提供したり、目の前で調理する時には食欲も沸き、食事量が増えたりと楽しみにしていただいている。それぞれの力に合ったお手伝いをお願いしている。	食事は、大きなテーブルを丸く囲んで座り、利用者の間に職員が入って、ゆっくりとした家庭的な雰囲気になっています。食事の材料は業者から届けてもらっていますが、昼食のメニューについては利用者と話し合い、希望を聞いています。メニューを変更して利用者と一緒に好み焼きを焼くなど、作る楽しさを共有しています。味噌汁に団子汁が出され、利用者から食べるものがない時期の思い出話を聞いたり、作り方や昔の知恵を教えてもらう等、楽しい雰囲気で食事をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食量や水分の摂取量は記録し把握している。水分は昼に一度計算することで一人ひとりの水分摂取量を調節する目安としている。食事量が減少している時は好みの物や、食べやすい形態にしたりして支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを一人ひとりの状態に合わせて見守り、介助、半介助とそれぞれの状況で行っている。歯ブラシやコップも個々の状態に合わせて変えている。義歯を預かり消毒も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々の表情や行動の変化も把握しサインを見逃さないようにしている。表出できない方へは随時トイレへ付き添えるよう援助している。パットの当て方や使用方法を個別に変えている。又、トイレ内では羞恥心へ配慮した見守りを行ないそっと介助している。	排泄パターンを把握し、入居時にリハビリパンツ対応だった利用者が、布パンツで対応できるようになった事例があります。特に排便については、トイレでの排泄に力を入れています。ターミナル期の利用者も、体調や身体状況を考慮したうえで、トイレでの排泄を大切にしています。こうした取り組みは、職員同士で話し合って実現しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な水分量や適度な運動・腹部マッサージ等で自然な排便ができるよう促している。どうしても自然排便が無理な時は医師・看護師に報告し、便薬の処方をお願いし、状態によって調節し、予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前・午後とバイタルチェック行ない体調を確認のうえで、その人のタイミングや体調により午前・午後と分けて入浴してもらっている。脱衣所で音楽をかけたりする時もある。拒否のある時は無理強いしないようにしている。	入浴は、2日に1回を基本としており、希望によっては毎日でも入浴が可能です。車いす対応の方には、シャワー浴や職員が2人で対応するなど、工夫をしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	一人ひとりのリズムに合わせて入 眠時間を考慮し就寝を促してい る。体力や体調を考慮し昼寝等 の休息の時間も設けている。清 潔な寝具や室温・照明にも配慮 し、快適に休めるよう工夫して いる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	一人ひとりの薬リストを個人ファ イルに綴じており、事務所にも それぞれが服薬している薬表を 掲示し、いつでも確認できるよう になっている。服薬に至るまで のチェック体制を整えている。薬 局との連携で副作用等の説明を 受けている。薬の変更があった 場合は日々の様子を観察し、看 護師へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	入居者様の好まれる家事・歌・ 塗り絵など一人ひとりの力が生 かせるよう支援している。食器 拭きや洗濯物畳みなど出来る 事を役割として感じて頂ける 様支援している。時に気分転換 として、カラオケ大会や散歩を 行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や買い物で戸外へ出ることで気分転換や季節を感じてもらえるよう支援している。外出できない時にはベランダや玄関先へ出ることで外気に触れてもらっている。家族様と一緒に出かけられるような雰囲気作りを心掛けている。	お菓子や花の買い物、外気浴等、外出の機会を積極的に作るようにしています。職員が外に出かける際は、利用者と一緒にいくようにしています。外食やスーパーでの買い物、花見にも出かけています。車椅子利用の方が増え、マンツーマン対応が必要になったことで、個別の外出支援を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の了承の下、自己管理されている利用者様がられる。買い物時には財布より自己にて支払いをされる方もられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人からの希望があれば電話や手紙のやり取りが出来るよう支援することができる。年賀状はご自分で書いたり職員が手伝ったりしながら出している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく清潔で、くつろげる空間作りを心掛けている。トイレの臭いにも配慮している。居間らは台所で調理している様子が見え、音や匂いを感じてもらえる。利用者が安全に移動できるよう、動線に障害物が無いように気を配っている。	ホーム内は明るく、穏やかな雰囲気です。玄関には観葉植物や下駄箱があり、座って靴を履ける椅子が置かれています。リビングには、大きなテーブルが置かれ、利用者は自由にテーブルの周りに座り、くつろいでいます。また、寛げる場所のために、椅子やソファの配置にも配慮しています。リビングのカウンター越しのキッチンからは、ご飯の炊ける匂いや食事の準備の音が聞こえ、生活感が漂っています。壁には季節にあった飾りつけや、行事の写真が飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士でゆっくり、楽しく会話が出来るよう環境づくりに配慮している。ローソファでは昼寝が出来るようになっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具や食器を持参してもらい、生活スペースを馴染みのある環境に近づけられるよう配慮している。就寝環境（布団）はそれぞれの状態に合わせて過ごしやすいように工夫している。	各居室は明るく、洗面台とベッド、クローゼットが備え付けられています。居室の入口には、手作りの表札を掲げ、暖簾をかけている利用者もあります。居室には、タンス、テレビ、椅子やテーブル等、利用者の使い慣れた馴染みの生活用品を持ち込み、その人らしい安心できる居場所を作っています。利用者一人ひとりの過ごし方を尊重し、寛げる居室作りを大切にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建て物はバリアフリーになっていて必要箇所には手すりが設置され、安全に移動できるようになっている。各居室には表札を取り付け、トイレにも表示をして場所が分かる様にしている。		